

委員会	シニア委員会	担当者氏名	中和 昌成
<p><b>〔現状〕</b></p> <p>長野県の現状と課題： サッカー関連における現在の長野県全域を見渡すと、競技力においても施設面においても全国的に見て立ち遅れていると言わざるを得ない状況である。競技力においては強化・育成の部分で一貫した指導ができていないため選手のスキルに大きなバラつきとレベルの差がみられる。多分に指導者の考え方やレベルの差もあるが、基本的な考え方が統一できていないためではないかと思われる。協会を上げて中・長期的な指導体制の整備が必要と感じられる。県内では現在、松本山雅をJリーグへ昇格させるべく応援、支援をしているが、協会としては長野県サッカーの現状を考えると一旦切り離して考えていくべき問題である。長野県内地域の活性化と長野県サッカーの向上は別問題として捉え、Jリーグチームが誕生することが短絡的に長野県サッカーが成長するという本末転倒的な考え方に陥らないことだ。</p>			
<p><b>〔目標〕 5～10年後 20年後 20年以降50年後</b></p> <p>委員会・地域における課題： シニア種は2000年に発足して以来13年目を迎えるが、やっと定着してきた感がある。元来シニア種は普及が中心として考えられ活動してきた。1種社会人選手の受け皿として40歳以上の競技者を対象として、先ず登録を推進し協会の傘下に入ってもらったところから、次に競技者として生涯サッカーを目指してもらうことを主眼として行ってきた。しかし、今後は普及に加えて強化・育成にも力を入れていく方針である。</p> <p>1. 強化</p> <p>①年代別によるカテゴリーリーグ戦の定着 → ナイター設備等の整った環境の会場確保</p> <p>②カテゴリー県代表決定後の環境整備 → 練習会場等の提供、遠征費用の補填</p> <p>③他県シニアとの交流 → 親善試合等を計画し、多くのチーム・選手に参加してもらう</p> <p>2. 育成</p> <p>①ひとつ下のカテゴリーとの情報共有</p> <p>②次年度を見据えた選手確保 → 交流試合等による選手発掘の場を提供</p> <p>③他チーム間で自由にプレーできるようにしてレベルを再確認してもらう</p> <p>3. 普及</p> <p>①生涯スポーツとしての認識の向上 → 「競うスポーツ」との認識だけでなく、「適度な消耗でも楽しめるスポーツ」との認識を与えるためのローカルルールによる大会の設定 公園等に自由に使える貸し出し用ボールの配置</p> <p>②「競技」と「楽しみ」との棲み分け → 競技として全国を目指す大会（チーム）と体を動かすことの楽しみ（健康維持）を目的とした大会（チーム）との分別</p> <p>③観戦、応援の楽しみ → 家族等で気楽に観戦できる環境整備（松本山雅とのタイアップなど）</p> <p>④全国規模競技会の誘致 全国シニア60歳大会・70歳大会等</p> <p>⑤県内各地において親子サッカーを開催し、子供にサッカーの楽しさを教える。</p>			
<p><b>〔目標達成のための具体的な取り組み〕</b></p> <p>解決策 or 未来の姿： 理想は、サッカーを通して子供から老人までが楽しくプレーすることと、各カテゴリーで全国に通用すること。中長期的に推し進めていくべきである。夢は長野県が静岡県のようにJリーグから子供の大会までを開催し、地元選手がそこで活躍できるようにすることである。</p>			